

ごとく宣せし群臣拜舞す、宣命使拜のほどにふみをまきてしりぞく、揖を群臣の後の拜にあはするなり、あながちあはせずいさ、かまへにす、む様にて右へめぐりて、さきのごとくしりぞく、曲折のいうさきのごとし、堂上の座につく、群卿かへりのぼる、宸儀御はしをぬきて入御、大將けいひちす、大將なくば内辨是をせうす、近衛の陣けいひちせうす、近衛陣のけいひちは左上首一人するなり、皆するはひが事なり、内辨已下はしをぬきてまかりいづ、宸儀入御の御みち以下、御供の女房等出御のごとし、せちるのほど火きへたらば、内辨さしあぶらをもよほす、其詞云、御後に職事や候、さしあぶらといふ女じゆはかま、きあぶらをとりかふ、おくの座の人のみち、北の小間をば親王ならびに左右の大臣内侍などの路なり、その外は中間をふるなり、本殿に還御ののち、女房はいせんにて夕の御膳を供す、

〔後水尾院當時年中行事上見〕小朝拜略○中事をはりて還御、えばらくありて節會事具するのよしを申せば、亦清涼殿にならしまして、御そく帯ありて出御、これよりさき、略○中内侍二人髪上て後、劔璽を案しながら、清涼殿の北の上段にえばらく案す、二階厨子なり、いつか、大宋の屏風を引めぐらして、内侍二人屏風の外に候す、出御の時是をとりて、議定所の東より出て、母屋の南の第二の間をへて、ひさしの南第一の間を出て、御さきにゆく、職事共扶持す、南殿に出御の時は、非色の者は御後にいらざるがゆゑ也、命婦二人は、清涼殿の東のすのこの北の妻戸より出て、御後にゆく、節會の事、又次第にゆづりて筆をさしおく也、近年立かくの頃、還御、其後坊家そうなど奏すれば、内侍ひとへぎぬにて大ばん所へ出て、妻戸の簾下より廻り入て奏す、

〔近代年中行事細記〕元日節會次第

諸仗居 次陪膳采女撤御臺盤略○中 次内膳進立南階、供晴御膳、遅々之時、内辨下殿催之、略○註 群臣諸仗立、略○註 每供内辨問之、其詞四種ハ進メヤ、供了群臣居、次供腋御膳、自東階群臣不起、先